

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-112	小学校	国語科	国語	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 301・302	新しい国語 三上・新しい国語 三下		

1. 編修の基本方針

豊かな学びが未来を拓く

児童は、言葉で思い、言葉で考え、言葉で表現します。

人や社会、自然と言葉でつながり、

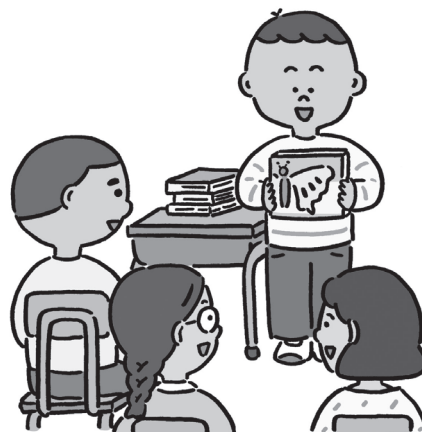
自らの世界を広げていきます。

「言葉の力」は、児童の生きる力そのものです。

この教科書は、児童が国語を豊かに学ぶことを通じて、
未来を拓く基盤となる

確かな「言葉の力」を身に付けることを目指し、

以下の3点を柱として編集されています。



特色

1

「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

学習の見通しとめあてを明確にし、主体的に学習に取り組むようにするとともに、
友達との学び合いを通じて、共に伸びる学習の楽しさに気付くようにします。

特色

2

「言葉の力」がしっかりと身に付く

「何ができるようになるか」を明確にしながら確かな「言葉の力」を身に付ける
とともに、言葉による見方・考え方を働かせて学びを深めるようにします。

特色

3

「学び続ける心」をしっかりと育てる

学習を通じた自らの成長を振り返り、国語を学ぶことの楽しさや意義を実感する
とともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。

「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

学習の見通しとめあてを明確にし、主体的に学習に取り組むようにするとともに、友達との学び合いを通じて、共に伸びる学習の楽しさに気付くようにします。

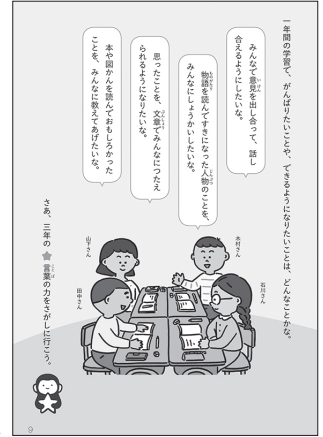
1. 「頑張りたい」ことを明確にして、主体的に学習に取り組む。

- 学習を見通す際に大切なのは、自分がどんなことを頑張っ て学習に取り組むかを明らかにすることだと考えました。児童が自分自身のめあてを持つことによっ て、成長への意思を持って主体的に学習に取り組むようにしました。

一年間の学習でがんばりたいこと（上9）

1年間の学習を見通したうえで、3年生の学習で楽しみなこと、頑張っ てできるようになりたいことを友達と伝え合います。1年間の学習のめあてを 持つよう促し、成長への願いや期待を引き出します。

また、夏休み前と冬休み前には、「これまでの学習をふり返って」（上111， 下73）を設けています。学習の成果を確かめるとともに、今後への課題を見 だし、めあてを新たにすることを意図しています。（単元での取り組みは、 本趣意書 p6 をご覧ください。）

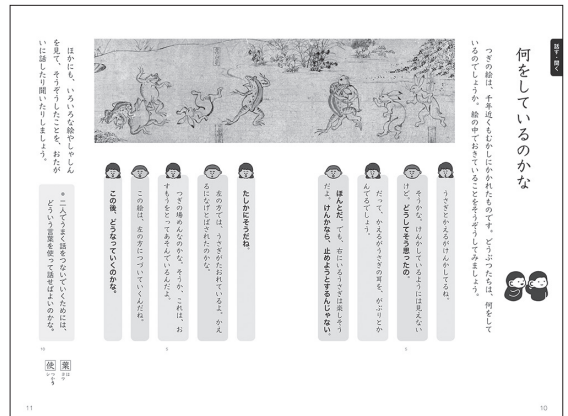


2. 対話的な学びを通じて、共に伸びる。

- 「みんなで楽しく学ぶ」ことで、友達と共に成長したい という思いを引き出したいと考えました。協働して課題 に取り組んだり、互いの考えを共有して深め合ったりし ながら、対話的に学ぶことの価値や楽しさに気付くよう にしました。

「何をしているのかな」（上10～11）

第2～6学年を通して、学年の最初に、友達との対 話を通じて互いの考えを広げたり深めたりする学習 を位置付けました。ここで身に付ける対話の力が、年 間を通して児童の対話的な学びを支えます。



「言葉の力」がしっかりと身に付く

「何ができるようになるか」を明確にしなが ら確かな「言葉の力」を身に付けるとともに、言葉による見方・考え方を働かせて学びを深めるようにします。

1. 「何ができるようになるか」を明示し、確実に身に付ける。

- 国語の力をしっかりと伸ばすためには、各単元で「何 ができるようになるか」を児童自身がきちんと認知す ることが大切だと考えました。「話すこと・聞くこと」「書 くこと」「読むこと」の全ての単元に「言葉の力」を明 示し、「何ができるようになるか」を明確にして学習を 進め、確実に身に付けることができました。

「言葉の力」（左…単元導入 / 右…単元末：「グループの合い言 葉をきめよう」上116～123の例）

単元導入では「何ができるようになるか」を、単元 末では学習で身に付いた大切なことをおさえます。

言葉の力

★司会の進行にそって話し合う

司会をするとき

- ・話し合うことや出てきた意見、きまっ たことをつたえる。
- ・話し合いの進め方にそって、発言を うながす。
- ・さんかするとき
- ・話題について意見を持つ。

★司会の進行にそって、話題について 考えたり発言したりする。

2. 思考を「見える化」して、学びを深める。

- 児童が多様な見方や考え方を働かせて学びを深めるようにするためには、教科書に登場する児童キャラクターがどのような見方や考え方を働かせて学習に取り組んでいるかを「見える化」する必要があると考えました。教室の児童が思考を深める一助となるように、思考の手立てとしてのノートやメモ、カードや図表の例、思考の表れとしての児童キャラクターのつぶやきを随所に提示しました。



思考の表れとしてのつぶやきの例 (下 57)

「図や表を使う」(下 66)

自分の気持ちを相手に伝える手段としての「手紙」と「電話」について、それぞれの特徴を、図や表を使って考えます。

図や表を使う

あることについて、いろいろな点から考えたり、二つのものをいくつかの点でくらべたりする場合に、図や表を使うと分かりやすくなります。

	手紙	電話
時間	書いてから、とどくまで時間がかかる。	すぐに話ができる。
つたえ方	書いた文章でつたえる。	自分の声でつたえる。
のこるもの	手もとにのこるので、読み返せる。	手もとにのこらない。
相手の様子	返事の手紙がくるまで分からない。	相手の声から、どんな気持ちかが分かる。

特色 3

「学び続ける心」をしっかりと育てる

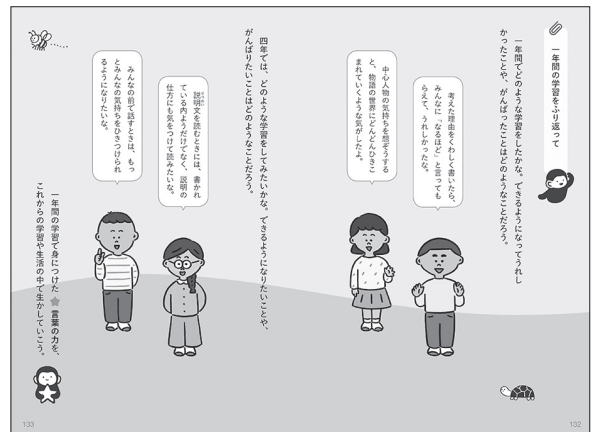
学習を通じた自らの成長を振り返り、国語を学ぶことの楽しさや意義を実感するとともに、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。

1. 自分の成長に気づき、学び続ける意欲につなぐ。

- 学習を振り返って「できるようになったこと」を確かめ、自分の成長を実感することで、もっといろいろなことにチャレンジしたい、学び続けたいという思いを抱くことができると考えました。単元末と学年末に、学習を振り返る場面を設け、自分の成長を確かめるとともに、さらなる学習への意欲を高めるようにしました。

「一年間の学習をふり返って」(下 132～133)

一年間の学習を振り返り、その成果を踏まえて、四年生への意欲を新たにします。(単元での取り組みは、本趣意書 p8 をご覧ください。)



2. 年間を通した読書指導で、読書に親しむ習慣と態度をはぐくむ。

- 生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくむために、年間を通して読書を促したいと考えました。学習に関連する本を紹介した「こんな本もいっしょに」のほか、随所に読書に関わる内容を設けました。(「図書館へ行こう」上 30～33, 「本は友だち」上 102～109, 「本をしようかしよう」下 68～71 など)

「本は友だち」(上 102～109)

「ゆうすげ村の小さな旅館 - ウサギのダイコン」(下 110～125) の作者である茂市久美子さんの読書体論文、28冊の図書を紹介した「三年生の本だな」、本の読み広げや読書記録を促す内容で構成されています。



2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所(頁)
全体	●教材や題材の選定にあたっては、学年を通して多様な内容やテーマのものを取り上げるように配慮し、幅広い知識や教養を身に付けられるようにしました。(第1号)	
「ほけんだより」を読みくらべよう	●健やかな身体を養うための朝食の大切さについて考えることができるようにしました。(第1号)	上90～100
はりねずみと金貨 サーカスのライオン モチモチの木 ゆうすげ村の小さな旅館-ウサギのダイコン クマの風船	●人間愛や他者への思いやり、人間の生き方、生命の尊さに触れた文章に触れることを通じて、豊かな情操と道徳心を培うとともに、自他の敬愛を重んじ生命を尊重する態度を養うようにしました。(第1号、第3号、第4号)	上64～79 上126～143 下40～59 下110～125 下134～147
ぼくがここに	●一人一人が存在することの価値に気付き、個人の価値を尊重する態度を養うようにしました。(第2号)	下巻頭
何をしているのかな 話したいな、わたしのすきな時間 本をしょうかいしよう	●個々の興味や関心、ものの見方・考え方や価値観の交流を通じて、多様な個性を認め合い尊重する態度を養うようにしました。(第2号)	上10～11 下26～29 下68～71
想ぞうを広げて物語を書こう 心が動いたことを詩で表そう	●感性豊かに表現することを通じて、豊かな創造性を培うようにしました。(第2号)	上148～152 下78～81
メモを取りながら話を聞こう	●さまざまな仕事や働く人に関わる教材や題材、学習活動を取り上げ、勤労を重んずる態度を養うようにしました。(第2号)	上50～53
何をしているのかな グループの合い言葉をきめよう 生活の中の言葉 案内の手紙を書こう 自分の考えをつたえよう	●他者と協働したり関係を結んだりする学習活動や、考えの交流・共有により相互理解や合意形成を図る学習活動を通じて、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うようにしました。(第3号)	上10～11 上116～123 上124 下30～33 下60～65
図書館へ行く	●図書館を利用する学習活動を通じて、公共の施設を大切に、決まりやマナーを守って利用する態度を養うようにしました。(第3号)	上30～33
パラリンピックが目指すもの	●人が持つ多様性を認め、公平・公正を重んじることの大切さに気付くようにしました。(第3号)	下8～21
春の子ども すいせんのラッパ 自然のかくし絵 季節の足音 俳句に親しむ	●自然への親しみや感動、畏敬を表現した文学的文章や、自然や生命の不思議について述べた説明的文章に触れることを通じて、生命を尊び、自然を大切にする態度を養うようにしました。(第4号)	上巻頭 上16～27 上38～47 上110・下72 下74～77
調べて書こう、わたしのレポート	●身近な自然との触れ合いや観察の中で気付いたことを表現する活動を通じて、生命を尊び、自然を大切にする態度を養うようにしました。(第4号)	上56～61
何をしているのかな 慣用句を使おう 俳句に親しむ	●言語に関わる文化をはじめとした我が国や郷土のさまざまな伝統・文化に触れることを通じて、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うようにしました。(第5号)	上10～11 上86～89 下74～77
パラリンピックが目指すもの 人をつつむ形-世界の家めぐり 外国のことをしょうかいしよう	●他国の文化や国際協力や国際交流に関わる教材・題材を取り上げ、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。(第5号)	下8～21 下88～100 下102～109

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 全ての児童が使いやすく分かりやすい紙面の配慮と工夫

① ユニバーサルデザインへの取り組み

- シンプルなデザイン、色使いを用い、大切な内容がすぐに目につくようにしました。
- 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
- 弱視の児童の学習のために、教科書と同一の内容の拡大教科書を発行します。

② 特別支援教育への配慮

- 特別支援教育の研究者に専門的見地からの監修・校閲を受け、全ての児童にとって読みやすく使いやすい配慮をしています。
- 行を見つけたり指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材に、5行ごとの行数字に加え、1行ごとのドット(点)を示しています。

③ 人権上の配慮

- 話例や文例、写真やイラストなどに登場する人物について、性別による偏りがないようにしました。
- 特にイラストの表現では、身体的特徴の過度な強調は避けるよう配慮しました。

④ 造本上の工夫

- 本文の文字には、本教科書のために特別に開発した教科書体を使用しています。おおらかでしっかりとしたデザインで読みやすいだけでなく、硬筆書写の手本をモデルとしており、文字指導に適した書体です。
- 児童が長期にわたって毎日使用することをふまえて、特に堅牢な針金綴じで製本しています。
- 通学時の持ち運び等の負担を軽減するため、十分な強度を保ちつつ軽量化した用紙を使用しています。
- 環境に配慮して、再生紙、植物油インキを使用しています。

2. 今日の課題への取り組み

① 授業支援と教員の負担軽減への取り組み

- 何を学ぶのか（「言葉の力」）、どのように学ぶか（「学習の見通し」）を明示するとともに、学習過程における児童の活動や思考の流れを具体的に記述しています。指導計画・評価計画が立てやすく、無理なく指導できます。
- 教師用指導書を通じ、学習指導をさまざまな面から支援します。
- インターネットを通じ、児童の学習や先生がたの学習指導に役立つデジタルコンテンツを配信します。

② カリキュラム・マネジメントへの取り組み

- 各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、取り扱う教材や題材は、他教科等との合科的・関連的指導が図れるものや、家庭や地域との連携が図れるものを積極的に選定しました。（「メモを取りながら話を聞こう」上 50～53、「調べて書こう、わたしのレポート」上 56～61、「グループの合い言葉をきめよう」上 116～123、「パラリンピックが目指すもの」下 8～21、「案内の手紙を書こう」下 30～33、「人をつつむ形-世界の家めぐり」下 88～100、「外国のことをしようかいしよう」下 102～109 など）
- 既習事項の定着、学習に関連した読書活動、季節に応じた詩や短歌・俳句の音読や暗唱、生活や学習に関わる語彙の習得など、日常的・継続的に取り組むことによりしっかりと学習習慣を育てるとともに、各校の実態に応じて、短時間学習を含めた柔軟な時間割編成や家庭学習に対応できる教材を提示しました。（「漢字の練習」上 15・下 35 ほか、「言葉の練習」上 153・下 101、「こんな本もいっしょに」上 27・下 21 ほか、「三年生の本だな」上 104～107・下 71、「きせつの足音」上 110・下 72、「ことばあつめ」上 147・下 38 など）

③ 道徳教育との関連

- 児童どうしの協働や考えの共有など、対話的な学習活動を通じて、相互理解を深める態度を養うようにしました。
- 自他の尊重や生命に対する畏敬、我が国や他国の伝統や文化の尊重等に関わる教材や題材、学習活動を通じて、豊かな情操や道徳性を養うようにしました。（本題意書 p4「対照表」参照）

④ 各種の教育課題への対応

- 教材や題材の選定や学習活動の設定にあたって、以下の教育課題に対応できるよう配慮しました。
 - 【**伝統・文化に関する教育**】…我が国や郷土の言語文化について学んだり、伝統や文化に触れたりする。（「何をしているのかな」上 10～11、「慣用語を使おう」上 86～89、「俳句に親しむ」下 74～77、「日本の俳句」下 160 など）
 - 【**主権者に関する教育**】…学校生活や社会生活における課題を見だし、その解決に主体的に参画する。主体的・合理的な考えの形成や判断、他者との考えの共有や合意形成に取り組む。（「何をしているのかな」上 10～11、「グループの合い言葉をきめよう」上 116～123、「自分の考えをつたえよう」下 60～65 など）
 - 【**法に関する教育**】…図書館や図書館の本など、公共物を決まりを守って利用する。学校生活における課題について、役割を決めて話し合い、合意形成を図る。（「図書館へ行こう」上 30～33、「グループの合い言葉をきめよう」上 116～123）
 - 【**情報化に関する教育**】…目的に応じた手段や方法を用いて情報を収集し、適切かつ効果的に活用して課題の解決を図る。（「パラリンピックが目指すもの」下 8～21、「外国のことをしようかいしよう」下 102～109 など）
 - 【**環境に関する教育**】…自然環境に関わる教材や題材、学習活動を通じて、自然に対する豊かな感性をはぐくんだり、自然や環境保全の大切さへの理解を深めたりする。（「春の子ども」上巻頭、「すいせんのラッパ」上 16～27、「自然のかくし絵」上 38～47、「調べて書こう、わたしのレポート」上 56～61、「俳句に親しむ」下 74～77、「きせつの足音」上 110、下 72 など）
 - 【**生命の尊重に関する教育**】…生命の営み、生命あるものの存在の尊さや価値に触れ、生命の尊さについて考える。（「自然のかくし絵」上 38～47、「サーカスのライオン」上 126～143、「ぼくがここに」下巻頭など）
 - 【**食に関する教育**】・【**心身の健康の保持増進に関する教育**】…健康の保持増進に果たす朝食の役割について理解を深める。（「『ほけんだより』を読みくらべよう」上 90～100）
 - 【**オリンピック・パラリンピックに関する教育**】…パラリンピックの精神や意義に触れ、理解を深める。（「パラリンピックが目指すもの」下 8～21）
 - 【**国際理解・平和に関する教育**】…国際交流、他国の生活や文化への理解を深める。（「パラリンピックが目指すもの」下 8～21、「人をつつむ形-世界の家めぐり」下 88～100、「外国のことをしようかいしよう」下 102～109 など）

3. その他の取り組み

① 教育の情報化への対応

- 学習のねらいや学習活動の目的に応じて、さまざまな情報収集の手立ての一つとして、インターネットの活用を促す場面を提示しました。（上 59、下 104～105 など）
- ローマ字の学習と関連させて、コンピューターへの文字入力を取り上げました。（「ローマ字②」下 24～25）
- 教科書に㊦マークを示した箇所を中心に、インターネットを通じて学習に役立つデジタルコンテンツを配信し活用できるようにしました。（「漢字の練習」上 15・下 35 ほか、「メモを取りながら話を聞こう」上 51、「言葉の練習」上 153・下 101、「聞いてみよう」上 154、「新しく習った漢字」上 164・下 161 など）
- 教科書と同じ内容の学習者用デジタル教科書を発行します。

② 学力調査、大学入試改革への対応

- 単元や教材の設定にあたっては、全国学力・学習状況調査をはじめとする各種の学力調査の出題傾向や結果の分析、大学入試改革の動向等を踏まえ、現代の児童に求められる学力がしっかりと身に付くよう配慮しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30-112	小学校	国語科	国語	3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
2 東書	国語 301・302	新しい国語 三上・新しい国語 三下		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

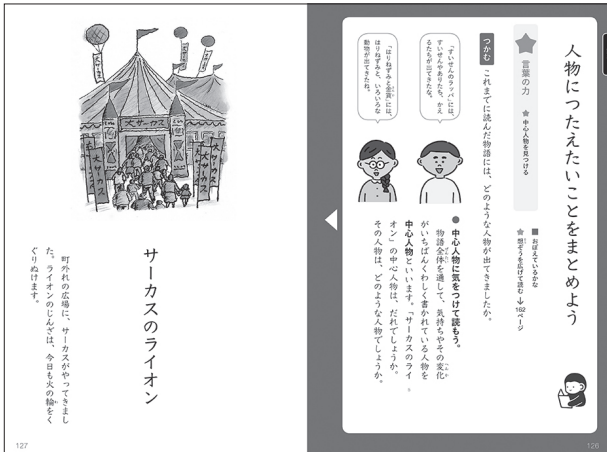
特色

1

「伸びたい気持ち」をしっかりと引き出す

1. 「できるようになりたい」を引き出す単元の導入。

- 課題解決的に学習を展開できるよう、単元を「つかむ」「取り組む」「ふり返る」で構成しました。児童の主体的な学習を促すため、「つかむ」段階の充実を図り、既習事項や日常の言語生活とつなげながら、単元の学習で「できるようになりたい」ことを見いだせるようにしました。



「サーカスのライオン」導入 (上126-127)

- 右ページ…既習の物語に出てきた人物を想起しながら、「中心人物」に着目して読むよう促します。
- 左ページ…「サーカスのライオン」本文への関心を高めるよういざないます。



「グループの合い言葉をきめよう」導入 (上116-117)

- 児童キャラクターの話し合い例を参考に、自分たちの話し合いをよりよいものにするためにはどうすればよいかを考えます。日常の言語生活を豊かにするために「できるようになりたい」ことを引き出します。

2. 協働と共有で、共に伸びる。

- 友達と協働して学習の課題に取り組むこと、考えを共有して互いに認め合い高め合うこと。この二つを大切にすることで、対話的な学びを実現し、仲間と共に伸びる喜びを味わえるようにしました。



共に学び、成長するキャラクター

4人のキャラクターが、教室の児童とともに学習に取り組み、成長していきます。



互いにアドバイスし、高め合う。(下107)



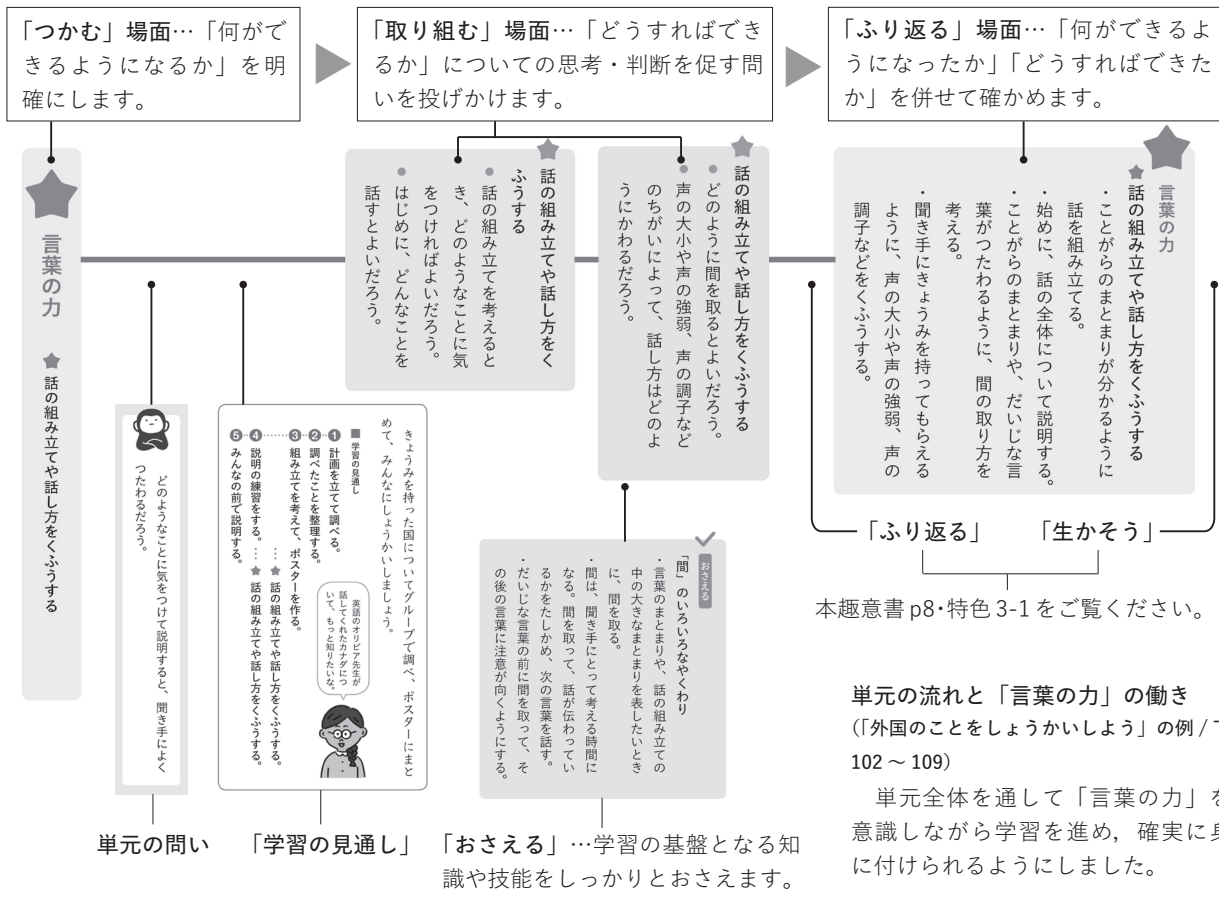
考えを共有し、深め合う。(上142)



「言葉の力」がしっかり身に付く

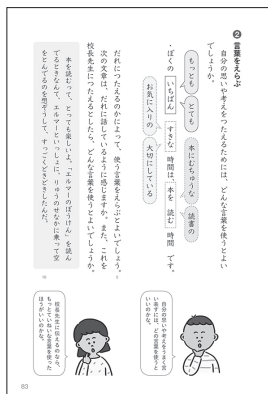
1. 「言葉の力」を常に意識し、しっかりと身に付ける。

- 常に「何ができるようになるか」「どうすればできるか」を意識して学習を進められるよう、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各単元に、身に付けたい「言葉の力」を設定し、単元を通して明示しました。



2. 語彙を豊かに広げ、学びを支える。

- 「言葉の力」の基盤となり、全ての学びを支える「語彙」を重視し、豊かに広げる学習を随所に設けました。

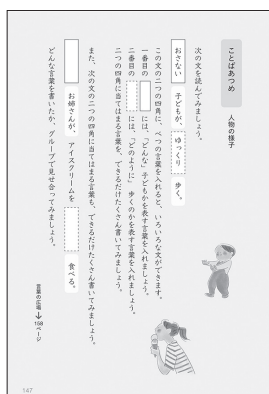


「ことばあつめ」(上147・下38)

上巻は人物の様子、下巻は人物の行動と気持ちを表す語彙を集めます。

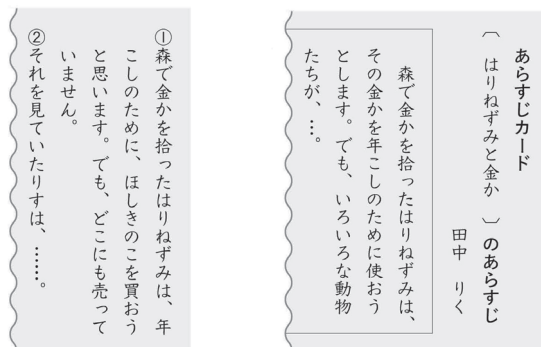
言葉単元「言葉でつたえ合う」(下82～86)

気持ちや考えを伝える言葉について考え、語彙を豊かにします。



3. 多様な手立てで学びを深める。

- 「言葉の力」に即した言語活動を設定するとともに、活動のさまざまな局面に応じて思考を広げたり深めたりする手立てとして、ノートやメモ、カードや図表を用いた学習を重視しました。



「はりねずみと金貨」(上64～79)

単にあらすじをまとめるのではなく、「あらすじカード」にまとめるという言語活動を設定することによって、カードの紙幅に合わせて文章量を調整するなど、条件に合わせた思考・判断を働かせて学びを深めるようにしました。

「学び続ける心」をしっかりと育てる

1. 学習を振り返り、国語を学ぶ意義に気付く。

- 単元末の「ふり返る」では、自らの学習の過程を価値付ける視点を投げかけるとともに、「言葉の力」を他教科等の学習や実生活に活用することを促す「生かそう」を設けました。自分が頑張っただけで学習に取り組んだことへの肯定感や学んだことの有用感を高め、さらに頑張ろう、もっと学びたいという意欲を喚起します。

「ふり返る」(「調べて書こう、わたしのレポート」の例 / 上 61)

学習のプロセスに目を向け、どんなことに気をつけたり頑張ったりして取り組んだかを振り返ります。「言葉の力」と対照することで、今後の課題を見いだすことにもつながります。

ふり返る

★言葉の力

★調べて分かったことをつたえる

- ・どんな方法で調べたら知りたいことが分かるかを考えて、調べ方をえらぶ。
- ・調べたこと、調べた理由、調べ方、調べて分かったこと、調べた感そうを分けて書く。
- ・調べて分かったことは、ことがらごとに整理して、見出しを立てて書く。

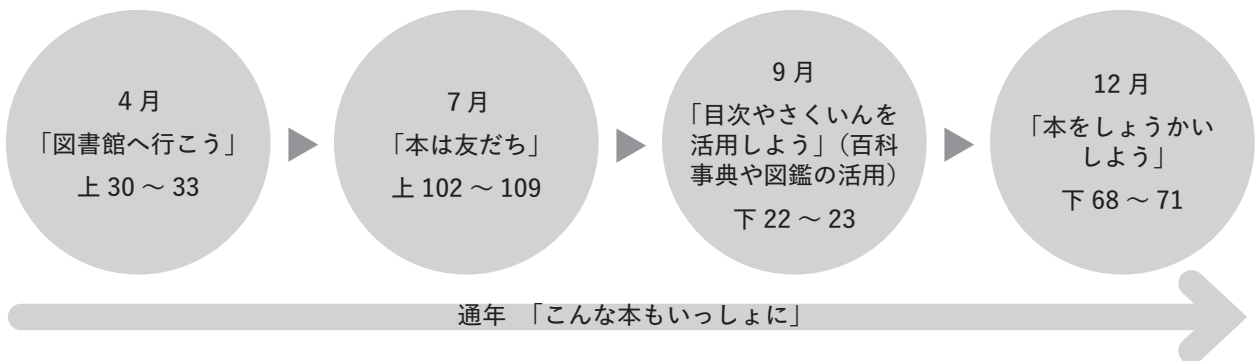
■生かそう

・理科や社会科で、調べたことをまよめる。

調べて分かったことを分かりやすくつたえるために、どんなことに気をつけてレポートにまとめましたか。

2. 年間を通した読書指導で、本に親しむ習慣・態度をはぐくむ。

- 年間を通して読書指導に力を入れています。さまざまな本と出会い、自らの世界を広げていく楽しさや喜びを味わうことによって、生涯にわたって読書に親しむ習慣や態度をはぐくみます。



検討の観点と内容の特色

観 点	特色及び該当箇所例 (頁)
1. 教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育基本法第1章第2条の各項に照らし、教育の目標に示された内容を幅広く取り扱うことができるよう、教材の選定や学習活動の設定に意を用いました。
2. 学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ● 小学校学習指導要領(国語科)に示された各学年の内容をもれなく扱うとともに、教科及び各学年の目標が確実に達成できるよう、単元や教材の内容を設定し、適切に組織・配列しています。
3. 内容・組織	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領の学年の目標と内容をもれなく扱うとともに、各教材や単元において扱う内容を重点化し、6年間を通じて段階的・系統的に学習が積み上がるようにしています。 ● 各単元ごとの学習の重点を「言葉の力」として明示し、取り扱う内容が一目で分かるようにするとともに、上下巻の巻頭に「三年で学習する『言葉の力』」(上7~8, 下6~7)を設け、年間の学習を一覧して見通せるようにしました。 ● 単元の導入に「おぼえているかな」として既習事項の想起を促し、学習に生かせるようにしました。また、「言葉の力」の相互のつながりを確かめたり意識したりできるように、上下巻の付録に「二年で学習した『言葉の力』」(上160~163, 下154~157)を、下巻には併せて「三上で学習した『言葉の力』」(下158~159)を設け、それぞれ一覧できるようにしました。
① 内容・系統	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習指導要領の学年の目標と内容をもれなく扱うとともに、各教材や単元において扱う内容を重点化し、6年間を通じて段階的・系統的に学習が積み上がるようにしています。 ● 各単元ごとの学習の重点を「言葉の力」として明示し、取り扱う内容が一目で分かるようにするとともに、上下巻の巻頭に「三年で学習する『言葉の力』」(上7~8, 下6~7)を設け、年間の学習を一覧して見通せるようにしました。 ● 単元の導入に「おぼえているかな」として既習事項の想起を促し、学習に生かせるようにしました。また、「言葉の力」の相互のつながりを確かめたり意識したりできるように、上下巻の付録に「二年で学習した『言葉の力』」(上160~163, 下154~157)を、下巻には併せて「三上で学習した『言葉の力』」(下158~159)を設け、それぞれ一覧できるようにしました。
② 程度・分量	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材や題材は、児童の関心や発達の段階に合わせて適切なものを取り上げました。 ● 学年の配当時数に応じて適切な単元・教材数、分量とし、領域ごとのバランスにも配慮しました。また、単元ごとに、内容に応じて適切な時数を配当しました。

③ 組織・配列	<ul style="list-style-type: none"> ● 4月を学習の基盤作りの期間とし、学習の基礎となる事項についての単元・小単元を位置付け、学んだことを以後の学習で活用できるようにしました。(上10～37) ● 学年の最初に年間の学習を見通す場面(上9)、夏休み前と冬休み前に「これまでの学習をふり返って」(上111, 下73)、学年末に「一年間の学習をふり返って」(下132～133)を設け、年間を通して見通しを持つとともに、随時各自の学習を振り返って価値付け、今後への課題を見いだせるようにしました。 ● 領域ごとの学習のつながりに配慮するとともに、領域相互の関連にも配慮しました。
④ 学習過程	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元の導入部を「つかむ」、終末部を「ふり返る」として、課題解決的な単元の構成にするとともに、各巻冒頭の「国語の学習の進め方」で、課題解決的な学習の進め方を確かめられるようにしました。 ● 単元の導入部に、その単元の「言葉の力」を提示し、「何ができるようになるか」を明確にするとともに、課題に即した「学習の見通し」を提示し、課題解決への見通しを持って学習に取り組めるようにしました。 ● 学習の展開に応じて「言葉の力」に関わる大切な視点や観点を示唆する問いを投げかけ、言葉による見方・考え方をしっかりと働かせながら学習に取り組めるようにしました。 ● 友達との協働的な学びや学び合い、考えの共有の場面を多く設定し、対話的な学びを展開できるようにしました。(上10～11, 上117, 下57, 下107など) ● 単元末の「ふり返る」には、単元で学んだ大切なことを付記した「言葉の力」を提示し、学習の価値付けとともに、今後への課題を見いだせるようにしました。また、併せて「言葉の力」の活用を促す「生かそう」を提示し、学習の有用感を高めるようにしました。
⑤ 資質・能力の育成への配慮	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 知識及び技能については、各領域の学習の中で繰り返し扱うとともに、必要に応じて取り立てて学習する場面を設け、確実に定着が図れるようにしました。 ● 学習の基盤となる知識や技能を「おさえる」として随所に提示しました。 ● 第2学年で学習した漢字の習得を確かにするため、「漢字の練習 二年で習った漢字」(上15, 下35ほか)を年間9箇所設け、第2学年配当漢字の全ての漢字を取り上げて書けるようにしました。また、「送りがな」や「主語と述語」など、各種の学力調査の結果分析で課題とされている事項の習得を確かにするため、上下巻各1箇所の「言葉の練習」(上153, 下101)を設けました。 ● 語彙を豊かに広げる学習を随所に設定しました。(上86～89「慣用句を使おう」、上144～146「くわしく表す言葉」、上147・下38「ことばあつめ」、上158～159・下152～153「言葉の広場」など) ● 学習上大切な用語を、巻末付録「学習で使う言葉」(上156～157, 下150～151)で一覧できるようにしました。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1単元1領域を原則として指導事項を重点化するとともに、重点指導事項に即した具体的な言語活動を設定し、活動の目的や条件にそった課題解決的な学習を通して、必要な思考力、判断力、表現力等が身に付くようにしました。 ● 思考を言語化して考えを広げたり整理したりするツールとしてのノートやメモ、カードや図表を重視し、随所に例示しました(上58「調べることメモのれい」、上122「田中さんたちが考えたなかが分け」、下66「図や表を使う」など)。特にノートについては、学習の基盤となるものとして重視しました。(上28～29「国語のノートの作り方」) ● 話例や文例、児童キャラクターの吹き出し等に、学習に関わるさまざまな視点や観点を示唆し、児童が言葉による多様な見方・考え方を働かせ、深い学びを実現できるようにしました。
⑥ 指導計画作成への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 各校のカリキュラム・マネジメントに資するよう、取り扱う題材は、他教科等との合科的・関連的な指導が図れるものや、家庭や地域との連携が図れるものを積極的に選定しました。(上50～53「メモを取りながら話を聞こう」、上56～61「調べて書こう、わたしのレポート」、上116～123「グループの合い言葉をきめよう」、下8～21「パラリンピックが目指すもの」、下30～33「案内の手紙を書こう」、下88～100「人をつつむ形-世界の家めぐり」、下102～109「外国のことをしようかいしよう」など) ● 2学期制、3学期制のどちらの指導計画にも無理なく対応できるようにしています。 ● 複式指導に配慮して、第3学年と第4学年でなるべく同じ時期に同じ領域の学習を位置付けるように配列しています。

4. 特別支援教育や色覚特性などへの配慮 (ユニバーサルデザイン)

① 特別支援が必要な児童への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習に集中し、紙面の中のだいたいな情報に着目できるように、シンプルなレイアウトや色使いを工夫しました。 ● 行を見つけたり指示したりしやすくするため、全ての物語・説明文教材に、5行ごとの行数字に加え、1行ごとのドット(点)を付けています。 ● ローマ字に用いるアルファベットは、特別支援教育の専門家の助言の下で英語教科書用に新たに開発した、文字指導に適したユニバーサルデザイン書体を使用しています。また、4線の幅や線種、色についても、英語教科書で用いられるものを採用しました。
② 色覚の多様性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ● 色覚の多様性に配慮し、カラーユニバーサルデザインの観点から、配色およびデザインについて、全ページにわたって専門家による検証を行っています。
③ 拡大教科書の発行	<ul style="list-style-type: none"> ● 弱視の児童の学習のために、教科書と同じ内容の拡大教科書を発行します。

5. 表記・表現、印刷・造本に関する配慮

① 表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ● 文章は的確・簡潔で、学年段階に応じて分かりやすい表現をしています。表記や用語は統一した基準を設けています。
② 活字	<ul style="list-style-type: none"> ● 本文には、手書きの硬筆文字の筆使い・字形に準拠し、見やすく、文字の指導に適した教科書体を独自に開発・使用しています。
③ 印刷・造本	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期にわたる使用、通学時の持ち運びに配慮し、用紙は十分な強度を持ち、かつ軽量なものを使用しています。表紙は耐久性に優れた加工を施し、製本は特に堅牢な針金綴じを用いています。 ● 印刷は鮮明で正確です。 ● 環境に配慮し、再生紙や植物油インキを使用しています。

2. 対照表

該当箇所 (ページ)	図書構成・内容 (単元名)	学習指導要領の内容				配当時間					配当学期
		知識及び 技能	思考力・表現力・判断力等			知・技	話・聞	書く	読む	計	
			話すこと ・聞くこと	書くこと	読むこと						
上 10	何をしているのかな	(1)イ	(1)エ				2			2	一 学 期
上 12	くらべてみよう	(2)イ		(1)ア				2		2	
上 16	○物語を音読しよう すいせんのラッパ	(1)ク		(1)ア	(1)イエ(2)イ			2	6	8	
上 30	図書館へ行こう	(3)オ				2				2	
上 34	国語じてんの使い方	(2)イ				3				3	
上 38	○文章を読んで感そうをつたえ合おう 自然のかくし絵	(1)カ(2)ア		(1)イ	(1)アカ(2)ア			3	7	10	
上 48	漢字の表す意味	(1)エ				2				2	
上 50	メモを取りながら話を聞こう	(1)カ(2)イ	(1)エ(2)イ				4			4	
上 56	調べて書こう、わたしのレポート	(2)ア		(1)アイ(2)ア				10		10	
上 64	○「あらすじカード」を作ろう はりねずみと金貨	(2)イ		(1)イ	(1)イウ(2)イ			4	6	10	
上 85	ローマ字①	(1)ウ				3				3	
上 86	慣用句を使おう	(3)イ		(1)ア				3		3	
上 90	○書き手のくふうを考えよう 「ほげんだより」を読みくらべよう	(2)ア		(1)ウ	(1)アオカ (2)ア			3	7	10	
上 102	本は友だち	(3)オ				2				2	
上 112	○詩を読もう 紙ひこうき/ 夕日がせなかをおしてくる	(1)ク			(1)イエ(2)イ				2	2	
上 116	グループの合い言葉をきめよう	(2)イ	(1)アオ(2)ウ				7			7	
上 126	○人物につたえたいことをまとめよう サーカスのライオン	(1)オ		(1)ア	(1)イエ(2)イ			3	7	10	
上 144	くわしく表す言葉	(1)アオカ				3				3	
上 148	想ぞうを広げて物語を書こう	(1)オカ		(1)アイオ(2)ウ				8		8	
下 8	○パラリンピックについて調べよう パラリンピックが目指すもの	(2)イ		(1)ア	(1)ウカ(2)ウ			4	8	12	
下 25	ローマ字②	(1)ウ				2				2	
下 26	話したいな、わたしの好きな時間	(1)イオ	(1)アイ(2)イ				6			6	
下 30	案内の手紙を書こう	(1)キ		(1)イエ(2)イ				5		5	
下 36	漢字の読み方	(1)エオ				3				3	
下 40	○想ぞうしたことをつたえ合おう モチモチの木	(1)オ		(1)ウ	(1)エオ(2)イ			4	8	12	
下 60	自分の考えをつたえよう	(2)ア		(1)ウオ(2)ア				8		8	
下 68	本をしょうかいしよう	(3)オ			(1)カ				4	4	
下 74	俳句に親しむ	(3)ア		(1)ア	(1)カ			1	2	3	
下 78	心が動いたことを詩で表そう	(1)オ		(1)アオ(2)ウ				3		3	
下 82	言葉でつたえ合う	(1)アカ	(1)イ	(1)エ			2	3		5	
下 88	○世界の家のつくりについて考えよう 人をつつむ形ー世界の家めぐり	(2)ア		(1)ア	(1)オカ(2)ア			3	8	11	
下 102	外国のことをしょうかいしよう	(1)イ(2)イ	(1)イウ(2)ア				10			10	
下 110	○物語のしかけをさがそう ゆうすげ村の小さな旅館ーウサギのダ イコン	(1)オ		(1)ア	(1)イカ(2)イ			4	8	12	
下 126	漢字の組み立てと意味	(1)エ(3)ウ				2				2	
下 128	「わたしのベストブック」を作ろう	(1)ウ		(1)エオ				8		8	
計						22	31	81	73	207	後 期
						書写および予備				38	
						総計				245	